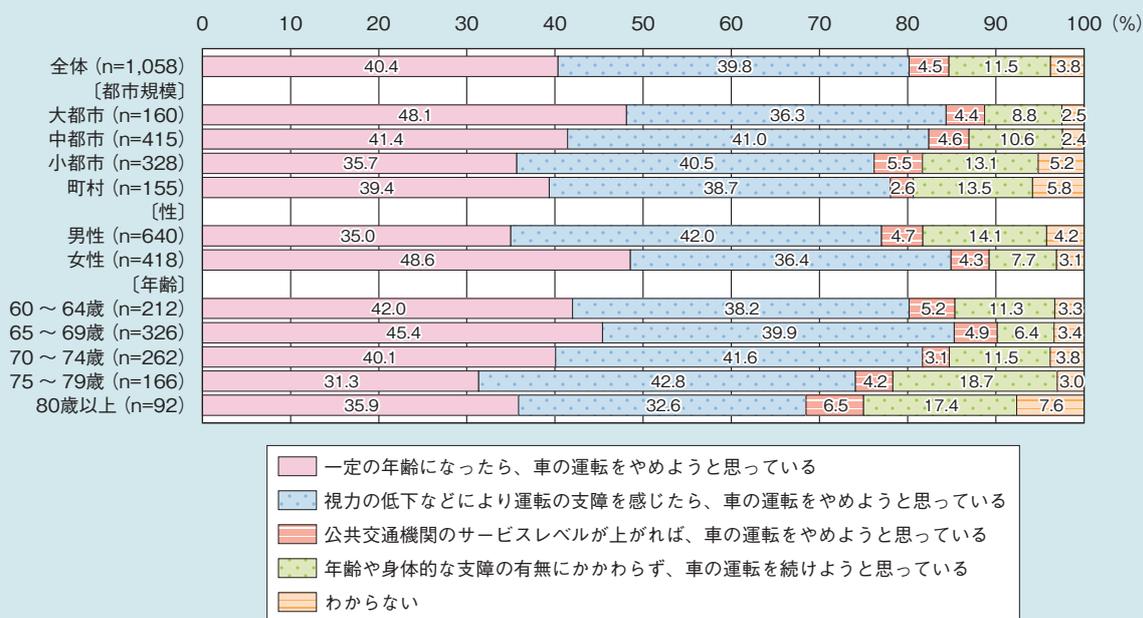


一方で「年齢や身体的な支障の有無にかかわらず、車の運転を続けようと思っている」人も11.5%いる。この割合は、都市規模別に見ると、都市規模が小さいほど高くなる傾向がある。

また、男女別に見ると、男性の方が車の運転

を続けようと思っている割合が高く、年齢別では、65歳以上では、年齢が上がるほど、車の運転を続けようと思っている割合が増える傾向にある（図1-3-11）。

図1-3-11 今後の車を運転することについての考え（択一回答）（都市規模別、性別、年齢別）（外出の際に自分で自動車を運転する人=100%）



（注）回答条件は、外出する際に利用する手段で「自分で運転する自動車」と回答した者

#### 4 高齢期の生活に関する意識

##### (1) 支えられるべき高齢者とは何歳以上とと思うか

60歳以上の人に、一般的に支えられるべき高齢者とは何歳以上だと思うか聞いたところ、「60歳以上」又は「65歳以上」と答えた人は少なく、70歳より上の年齢を挙げた人が約8割であった。

都市規模別に見ると、都市規模が小さいほど、80歳以上の年齢を挙げる割合が高くなる傾向が見られる。また、年齢別に見ると、60～74歳までは「75歳以上」が最も多いが、75歳

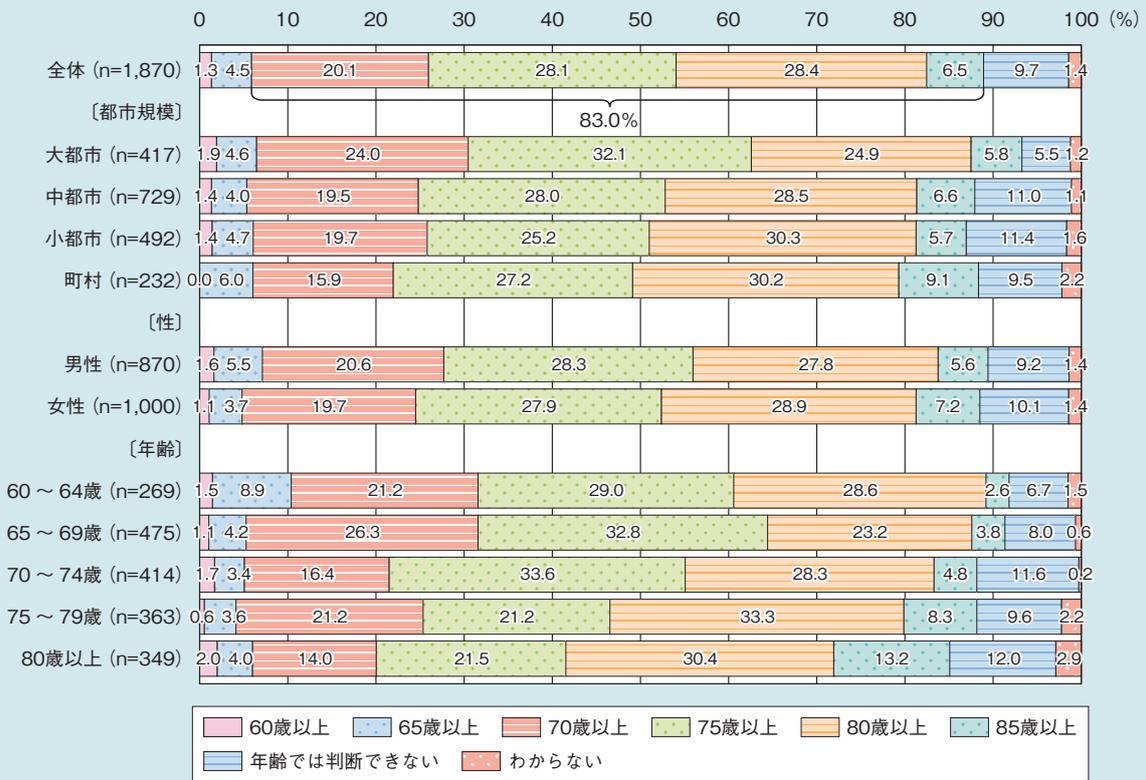
以上では「80歳以上」が最も多い（図1-3-12）。

##### (2) 60歳以上の人の約半数が、自宅で最期を迎えたいと考えている

60歳以上の人に、万一治る見込みがない病気になった場合、最期を迎えたい場所はどこかを聞いたところ、約半数（51.0%）の人が「自宅」と答えている。次いで、「病院・介護療養型医療施設」が31.4%となっている。

性別に見ると、「自宅」とする回答は、男性の59.2%に対し、女性は43.8%とやや低くなっている。さらに年齢別に見ると、男性は年齢に

図1-3-12 一般的に、支えられるべき高齢者の年齢（択一回答）（都市規模別、性別、年齢別）



(注)「これ以外の年齢」は回答した者がいなかったため、上記図には表示していない

よる差はあまりないが、女性は年齢が高くなるほど「自宅」とする割合が増える傾向にある。

また、未既婚や同居形態による差も見られ、「既婚（配偶者と離別）」や「単身世帯」、「二世代世帯（親と同居）」では、他に比べて「自宅」と答える割合が低くなっている（図1-3-13）。

### (3) 60歳以上の人約3分の1が孤立死を身近に感じている

60歳以上の人に、誰にも看取られることなく亡くなった後に発見される「孤立死」を身近に感じるかどうかを聞いたところ、身近に感じ

る（「とても感じる」、「まあ感じる」の合計）とした人が34.1%と約3分の1を占める一方、「あまり感じない」、「まったく感じない」は合計で64.0%であった。

年齢別では、年齢が高くなるほど、「まったく感じない」とする人の割合が高くなる。

未既婚別では、「未婚」「既婚（配偶者と離別）」の人が、孤立死を身近に感じると答える人の割合が多い（図1-3-14）。

図1-3-13 完治が見込めない病気の場合に迎えたい最期の場所（択一回答）  
（性別、性・年齢別、未既婚別、同居形態別）

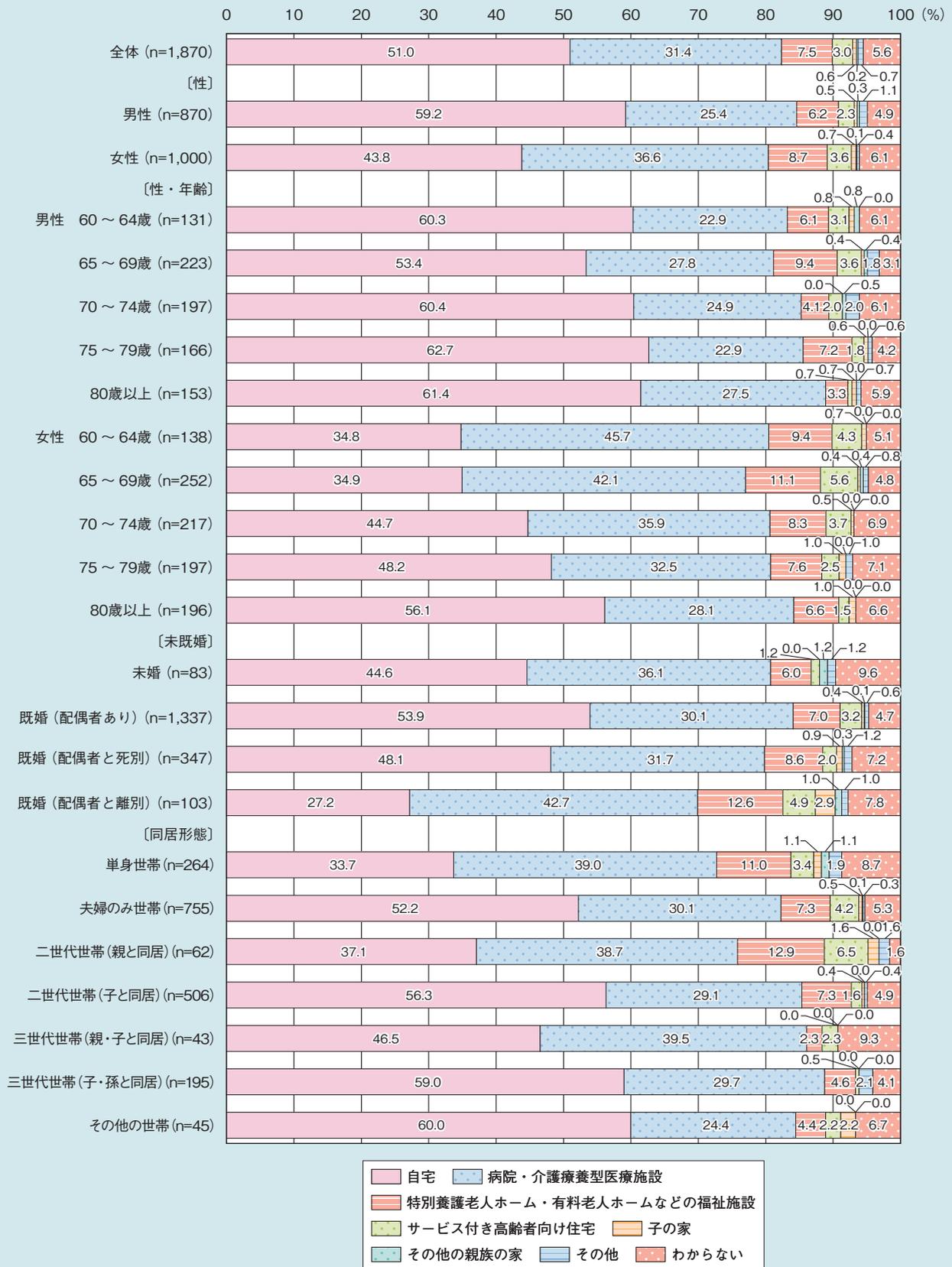
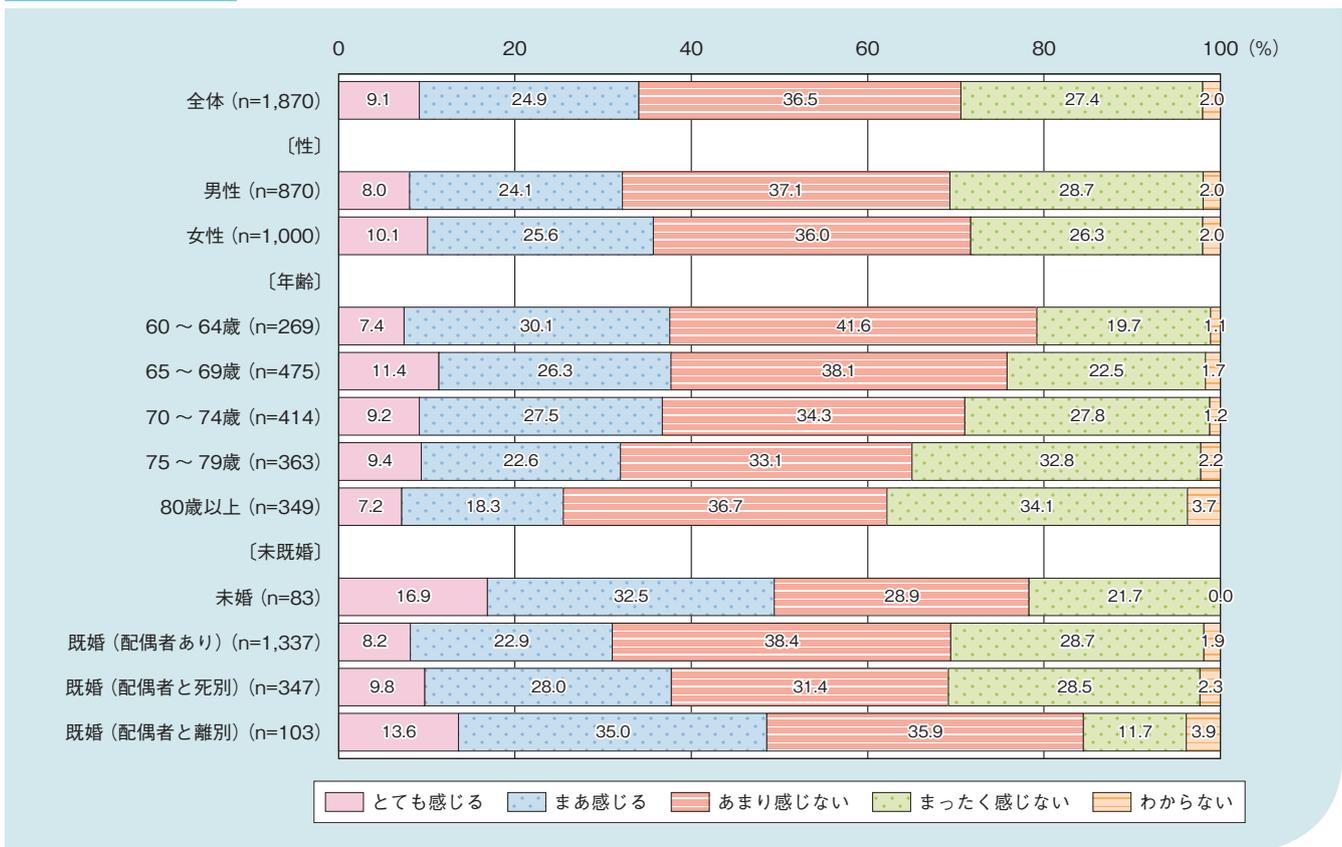


図1-3-14 孤立死を身近に感じるか（択一回答）（性別、年齢別、未既婚別）



## 5 まとめと考察

### (1) 高齢者が現在住んでいる地域に安心して住み続けるために

60歳以上の人のうち9割近くが持家に居住しており、持家居住者を中心に、ほとんどの人が現在住んでいる地域に住み続けたいと考えている。そして、約半数が、最期を自宅で迎えたいと考えている。これらの傾向は年齢が上がるほど強まる傾向が見られる。

このように高齢者の多くが、住み慣れた自宅や地域でできるだけ長く過ごしたいと考えている中で、認知症を始め、病気や要介護になることは大きなリスクである。病気等の予防とともに、万一病気や要介護になっても住み続けられ

るようにするためには、個人の努力だけではなく、地域での取組も重要である。

この点に関して、愛知県大府市では、「認知症に対する不安のないまち」を目指し、地域ぐるみで認知症予防のほか、認知症の方やその家族の支援の取組を進めており（トピックス1参照）、参考となるだろう。市の取組を通じ、認知症予防の意識が住民に浸透し始めており、健康で安心して住み続けられるまちづくりが進むと期待される。

### (2) 高齢者が地域で役割を持ち、活躍できる場づくり

現在住んでいる地域に住み続けたいと考えている60歳以上の人のうち半数以上が、安心し